

ニューズレター

No.84

2016年 5月26日

目 次

	ページ
お知らせ・行事案内	
2016年度 総会・講演会のお知らせ	1
行事記録	
第15回 さがみ自然フォーラム	1
展示	2
講演会 県央の鳥たち 藤井幹氏 日本鳥類保護連盟・調査研究室長	5
自然の中の私たち 四代目江戸家猫八師匠	6
鳥・なんでも相談 回答 四代目江戸家猫八師匠&藤井幹氏	9
松島先生が案内する地形地質見学会 足柄平野と山地	13
県内自然保護ニュース	14
神奈川県自然保護協会からのお知らせ	16

神奈川県自然保護協会 第12回総会・講演会のお知らせ

- 日時 2016年6月18日(土)
18時より (開場 17時30分)
 - 会場 神奈川県立かながわ労働プラザ多目的ホールB
 - 日程
 - 17:30 開場
 - 18:00 総会開会
開会挨拶 理事長 藤崎英輔
来賓挨拶
 - 18:20 総会議事(総会議案書は次号に掲載します)
 - 18:55 総会閉会
 - 19:00 講演
- 「かながわ生物多様性計画」の概要
神奈川県環境農政局緑政部 自然環境保全課
- 20:15 閉会予定



会場案内
JR京浜東北根岸線「石川町駅」北口 徒歩3分
231-0026 横浜市中区寿町1-4

講演会は会員でなくても参加できます。

行事報告

NPO法人神奈川県自然保護協会創立50周年記念事業・生物多様性あつぎ戦略推進事業

第15回 さがみ自然フォーラム

2016年2月11日(火・祝)～15日(月) 会場:アミューあつぎ 5階アートギャラリー(展示)
7階 amy スタジオ(講演ほか)

「<豊かな自然の保全・再生> 野生のいきものとどう付きあうか」をメインテーマとして開催しました。

期間を長く設定し、多彩な内容のプログラムを組んだ事、展示にあたっては例年の団体等の活動紹介の他にテーマに則した特別展示を行った事、またこの年度に取り組んだ「生物多様性ホットスポット」についても1室使った事など、神奈川県自然保護協会創立50周年記念行事の最後を締めくくるのにふさわしい充実した行事でした。

1 企画展 豊かなめぐみは野生のいきものから

(配布したパンフレット)

I 歴史の中で

人類としての人が見られた最初の頃、人々が生活する場は多くの他の動物たちと対等だった。

周囲には大型の猛獣や象のように巨大な動物が跋扈していた。その中で人は知恵を持つことで優位に立つことができた。

動物たちは人に毛皮や食糧などの恵みをもたらしてくれたが恐ろしい存在でもあった。

わたしたちの先祖は、自分の力の及ばないことがらの中に神の姿を見ていた。

森や、川や、海から得られる食物、或いは生活の道具にできるものは神からの恵みであり、また、農においては豊穡をもたらす土が神からの恵みだった。一方天災をもたらすものも神の仕業として畏れられた。

野生の動物たちも恵みと災いをもたらすことは同じで、ある時は神そのもので、またある時は神の使いとして崇める対象となっていた。

動物の生息は、生息する環境の質と収容力によって決まる。環境の質とは地表や植生などの状態であり、収容力とはその動物が生息するために必要な餌、生息空間、捕食動物による捕食圧などによって決まるものである。例えば森林が伐採されて草原や農耕地に、また農耕地が市街地に変わるなどするとそこに棲める動物の種類や数が変わる。カワウソやオオカミ、トキ、コウノトリなどの絶滅はこのような理由によるところが大きい。

人間の生活の有りようとの関係で人から見た獣害は文化・技術の発展と共に形を変えながらいつの時代にもあった。歴史的にわたしたちの祖先はこれと折り合いを付け、そこには神として祀ることもあったし、あきらめも、身近にいるものとしての親しみを持つこともあった。

このような関係から信仰、文学・音曲・芸能などの日本の文化が育まれてきたという歴史がある。



II 現代のわたしたちと野生動物

昭和 30 年代頃まで、都会を少し離れば田園風景が広がり伝統的な農地や山林の経営が行われていた。里山ではまだ需要があった薪や炭に利用するため定期的な伐採と萌芽更新による管理が行われていて奥山と人里の間には人と獣が棲む領域の間の緩衝地帯が出来ていた。

昭和 30 年代後半から日本は高度成長の時代を迎える。使用するエネルギーは薪炭や水力発電による自然エネルギー中心から石油など化石燃料に多くを依存するようになり、里山の薪炭林は存在価値が薄れた。また、将来の木材需要を見越して拡大造林が進められ里山はスギ・ヒノキの植林地に置き換えられ、一部は放置されるようになった。

これらのことは、野生の生きものに取っても歴史的に大きな棲息環境の変化であった。

新たに増えた植林地の幼令のスギ、ヒノキはシカにとって格好の餌となり、その数を増やすことになった。だが当時シカの数の増加の影響は林業のみの問題ととらえられて

いた。

昭和 40 年代になると、製材用で見ると輸入木材が国産材を上回るようになり、価格的にも国産材は輸入材に立ちゆくのが難しくなって林業の衰退が始まる。

現在、外国産材は国際的な環境保全運動の中で各国での輸出規制が始まり少なくなりつつあるが、国内での林業の担い手が不足している。多くの植林地でかつて植えられた木は伸び、広がった樹冠は林床への光をさえぎり下草が失われ、土壌流出を起し獣にとっては棲みにくい所になっている。

棲み家を失った獣たちはあるものは緩衝地帯としての機能がなくなった里山を越えて人里近くに移動した。そこは人の育てた栄養に富む餌が豊富にある魅力的な場所であった。

またあるものは山の高いところに登り餌を求めた。気候条件の厳しいこのようなところでは過度の採食を受けた自然植生が受ける影響は大きい。

加えて、近年人によって持ち込まれた外来の動物の問題がある。

持ち込まれ増えた動物に罪はないが、生態系の中に新たなものが入ることにより、元々生息していた生きものの生息場所を奪うことが問題だ。心ならず排除せざるを得ないが、本来暮らせる生息地があるなら戻すのが一つの解決法だ。



Ⅲ 現在、野生動物にどのように対応しているのか 丹沢のシカの例

シカは明治の初め頃までは平地の動物だった。人の生活領域が平地に広がると共に山に追いやられることになった。山地は草食獣としては本来カモシカの生息地だ。

明治から昭和中頃まで、狩猟の対象として重要な資源だった。神奈川県では狩猟鳥獣のワイルドライフマネージメントの一環として昭和 10(1935)年東丹沢札掛に鳥獣飼養所を設け、シカなどの増殖を行った。

戦後の混乱期、無秩序な狩猟によってシカの数は一時的に激減し、一時は 50 頭とも言われた時期もあった。

その後、禁猟にて保護を行ったが、林業被害が大きくなり一部を猟区として狩猟を再開すると共に植林地には公費で被害防除柵を設置するなどの措置を行った。シカ被害防除柵は当時神奈川県林務課の技師であった飯村武氏の考案によるもので、全国に先駆けるものだった。

現在、丹沢ではブナ枯れなど自然衰退が問題となり、丹沢大山再生事業や水源環境保全再生事業が行われている。いずれも原因をたどれば現在の社会のあり方に起因するものではあるものの対症療法的には、この 2 つの事業でシカ対策は重要な部分になっている。

神奈川県は第 3 次ニホンシカ保護管理計画 (H24-28) を策定し現在 4500 頭から 5500 頭の間といわれているシカを、繁殖可能個体 1000 頭を下回らない数を目標として対策が行われている。

目標は大きく 4 つあり、ア. 生物多様性の保全と再生、イ. 丹沢山地でのシカ地域個体群の安定的存続、ウ. 農業被害の軽減、エ. 分布域拡大による被害拡大の防止、である。

アでは高標高域での植生劣化を防止するための個体数調整を行っている。かつては猟友会に委託していた仕事も会員減や高齢化で困難になり専門職のワイルドライフレンジャーを置いている。イでは中標高域での生息環境整備、エでは広域獣害防止柵の設置や定着個体の排除を行っている。現在狩猟や管理捕獲により毎年、1500 頭くらいの捕獲が行われているが、エのように箱根などで分布の拡大があり対応は前途多難である。



Ⅳ これからの野生動物との対応をどうするのか

これまで見てきたように、野生動物とわたしたちの関わりは相対的なものである。

現在野生動物の人里への進出は全国的に問題になっている。これは、日本が高度成長期を終え、リーマンショック以来の経済縮減、人口減少社会であることと関係がある。新しいバランスをどのように作るかは、日本の国の将来をどう考えるかの問題と言える。

バードウォッチングを趣味とする人のように野生動物の野生の姿を間近に見られることを魅力と思う人もいる。

被害の軽減については、太古の昔の人が知恵によって克服したように、経験を積む中でどのような新たな関係づく

りを模索するかが解決につながる道だ。

土も空気も水も植物も人を含めた動物も一体となった生態系が健全であること。生態系を構成する生物の種類が多いほどその系の健全性が強いこと。そのような生態系の中にあつてこそ人々は多くの恩恵を受けられること。このような生態系を大事にしようというのが生物多様性保全の考え方だ。

例えばいやなものもがいても排除せず共存を考えた昔の人のように、身の回りにいろいろな生き物がいることで生活が豊かだと思える感性を持ちたい。

(文責：青砥航次)

2 県内自然保護団体や学校の環境活動の展示



小学校の展示



七沢希望の丘初等学校



厚木市立荻野小学校



厚木市立相川小学校

展示協力団体・組織

ご協力いただきありがとうございました

- あいかわ自然ネットワーク
- 厚木市立相川小学校
- あつぎ環境市民の会
- 厚木市河川みどり部公園緑地課
- 厚木市環境農政部環境政策課
- 厚木植物会
- NPO 法人厚木の川の環境を良くする会
- 荻野自然観察会
- 厚木市立荻野小学校
- 荻野三つ沢の里山を守る会
- かながわ海岸美化財団
- 神奈川トンボ調査・保全ネットワーク
- 神奈川野生動物救護連絡会（カナダガン調査グループ）
- 川名自然フォーラム
- NPO 法人自然塾丹沢ドン会
- 渋沢丘陵を考える会
- 丹沢大山自然再生委員会
- 七沢希望の丘初等学校
- 七沢里山づくりの会
- 一般社団法人日本オオカミ協会 神奈川県支部
- 認定NPO 法人ホテルのふるさと瀬上沢基金
- 横浜メダカの会



展示室の一部に自然素材の工作コーナーを設置しました

この他、神奈川県自然保護協会は生物多様性ホットスポットと協会 50 年史の展示を行いました。

2月14日（日）には、ポスターセッションが有り、参加団体交流のいい機会となりました。



3 講演会

1 「神奈川・県央の鳥たち」 ～県央の野鳥の暮らしとその魅力を紹介～

藤井 幹氏（日本鳥類保護連盟・調査研究室長）



県央地区と言っても、相模原市が大きくなって区分けが難しいので、厚木市中心に話をします。

厚木市には色々な環境がある。標高の高いところは大山、下には相模川があり、1200 m以上の標高差がある。これだけの面積の中でこれだけ多様な環境を持っているところは少ない。

厚木市では 200 種類ぐらいの鳥が記録されている。記録は少しずつ増えるので、今では 200 種を超えていると思われる。滅多にこない種類をのぞくと大体 162 種類ぐらいが観察されている。

クイズ

シラサギについて（3枚のシラサギの写真提示）
ダイサギ、チュウサギ、ショウサギ
この中で実際にいないのはどれ

ショウサギと言うのはいない。大きなサギはダイサギで、その次にちょっと中ぐらいのチュウサギと言うのがいて、その下はショウではなくてコサギ。

次のクイズ

（写真を示して）一番上に黒い鳥がいて、その次に青い鳥がいて、下に赤い鳥がいて、一番左隅に黄色い鳥がいる。

クロジ アオジ アカジ キジ この名前の中で本当はいないのはどれか。

答はアカジ。

写真の一番上はクロジ 次はルリビタキ、赤いのはベニマシコ、黄色いのはキジではなくてアオジ。

アオジ 黄色いのに何でアオジか、写真では黄色く見えるが少し緑がかった。

緑がかった鳥には、アオバト、アオゲラ、などアオがつく鳥がいる。英語では green だが日本ではアオという言葉で緑を指す事がある。青リンゴとか、青葉の頃とか。

それに代わって本当に青い鳥は、先ほどのルリビタキとかオオルリ、コルリと言うようにルリという言葉を使う。アオがつくからと青い鳥と思わない方がいい。

実際にはアオサギのように緑でなくてアオがつく鳥がいるが、ほとんど黄色、黄緑系統の鳥にアオという名がついている。

実際にどんな鳥がいるか。（スライドをたくさん使って説明）

以下説明したものと途中に挟まれたクイズなど。

山の鳥

オオルリ クロツグミ ミソサザイ ヤマドリ アカシヨウビン イワヒバリ マヒワ カワガラス ヤマセミ
ハイタカ ハチクマ クマタカ

里の鳥

キジ サンコウチョウ キビタキ アオバズク オオタカ

農耕地

アマサギ チュウサギ ツグミ ムクドリ ハシボソガラス ヒバリ モズ イカルチドリ タマシギ イワツバメ
タゲリ ノスリ チョウゲンボウ

ツグミのクイズ

ツグミはどうやって歩くか。

- ①足を交互に出して普通に人間が歩くように歩くか。
- ②両足を揃えて跳ぶように歩くか。
- ③両方やるか。

実は両方。ほとんどの鳥はどちらかだが、ツグミは両方。ものすごく速くやるので実際に見ていても分からないのだが、写真に撮ると分かる。

市街地

ドバト ハシブトガラス スズメ キジバト ツバメ オナガ ハクセキレイ ヒヨドリ カワラヒワ イソヒヨドリ
チョウゲンボウ ツミ

水辺

キセキレイ ユリカモメ イソシギ カワウ カルガモ
オシドリ ミサゴ ダイサギ コサギ

カワウのクイズ

カワウが水面から飛び立つとき、足がどうなっているか。
歩くように動かしているか。

足を揃えてホッピングのとうに動かしているか。

（写真を見せて）両足を揃えてホッピングのように上がっていく。なかなか見る機会が少ないが、注目して見ると楽しくなると思う。

ダイサギのクイズ（写真を見せて）

大きい種類と小さい種類のシラサギが何か分かるか。

ヒントは、冬。

実は両方ともダイサギ。小さい方のダイサギは日本に一年中いて繁殖している種類。左はシベリアの北の方から冬だけ入ってくる亜種。アオサギと比べても相当大きい。

よく冬の川でダイサギとチュウサギとコサギがいたと言われるが、チュウサギは夏鳥で冬にはいない。冬は基本的にダイサギとコサギだけ。

このように山間部、河川、平地、市街地とそれぞれ大体百種類ぐらいいる。それぞれそこにしかないと言うのではなく、少しオーバーラップする。いろんな環境でそれぞれに多い種類があるが、鳥はそこだけしか使っていないというのではない。それぞれ 100 だから合わせて 300 かということではなくそれぞれが色々な場所を使いながら

大体 160 種から 200 種類くらいが生活している。

外来種

元々日本に生息していない入ってきた種類を外来種と言う。基本的に人間が持ち込んだもの。

コジュケイ ガビチョウ ソウシチョウ ワカケホンセイインコ ハッカチョウが県央地区で観察されている。この中でガビチョウとソウシチョウは環境省が指定した特定外来生物。

渡りをする鳥

珍しい訪問者

ノゴマ アリスイ ニュウナイスズメ アオシギ タカサゴクロサギ タネコマドリ カラフトカワラヒワ

渡りのエネルギーを補給すること

キビタキやツグミは渡りの前にものすごく食べて脂肪を蓄える。キビタキは 15g ぐらいが普通なのに 2 週間ぐらいで 23g ぐらいに増える。人間で言うと、70kg ぐらいの人が 90 から 100kg ぐらいに上げるようなものだ。そうして渡っていく。

長距離を移動する

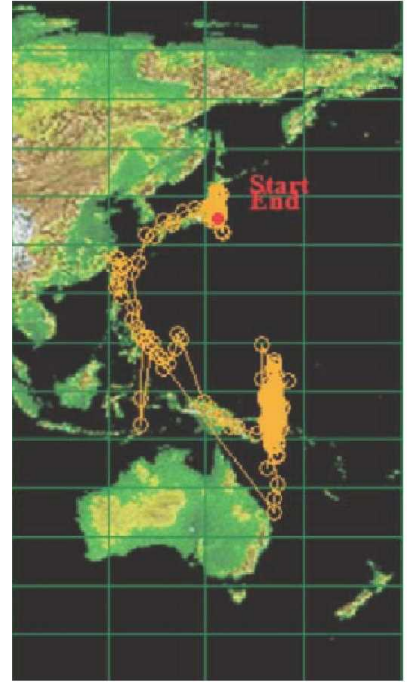
北海道で標識を付けたアオジが厚木で回収されたり、厚木で付けたものが静岡で回収されたりという例がある。

コアシサシはオーストラリアの方に渡っていく種類。

日本からどのように渡っていくのか分からなかったのでジオロケーターという機械を付けて渡りを調べた。

小笠原経由で渡るのか、インドネシア経由で渡るのか分からなかったが、実際やってみると こういう結果が出た。結果が出たのは良かったが、コアシサシはオーストラリアの南東部で越冬するとされていたのが全然違うところで越冬していたことが分かった。

更に詳しく調べようとしたが、ジオロケーターの性質上これ以上細かく分からない。コースは分かっていたが越冬地がどこかは分からなかった。概要は分かっていたが、保全のためにはその場所を詳しく知らなければならない。越冬地の環境が悪くなれば日本だけが繁殖地を守っても意味が無いのでその場所を調べなければならない。今 GPS を装着して調査している。GPS だと 10m の誤差で調べることができる。



ジオロケーターで分かったコアシサシの渡りの軌跡

最後に 県央地区は丹沢大山から相模川まで短い区間なのに環境の変化がありそれに合わせて色々な鳥がいる。だから県央に住んでいる人は色々な環境があり、とても多くの鳥がいることを自慢していいと思う。そのことを認識して、今日の話で鳥が少しでも好きになってくれれば嬉しい。

2 自然の中の私たち — 楽しい動物の鳴きまねから自然学ぶ —

四代目江戸家猫八師匠



四代目江戸家猫八師匠は、この講演からまもなく、3月21日に、病気のため逝去されました。この講演の時は、ずいぶんお元気そうで後の「鳥なんでも相談室」まで精力的にお話しして下さいました。今思えば、病をかくして最後の力を振り絞っての講演だったのかも知れません。もっともっと活躍して頂きたかったです。心からのご冥福をお祈り致します。ここには追悼の意味を込めて、その場の雰囲気ができるようにできるだけの全文を掲載します。

今日はようこそお出でいただき有り難うございます。嬉しいです。こういう会にお見えいただく事は本当に素晴らしい事なんです。

もうこれからは自然というものをどう見るか、自然というものをどのように大切にするか、どんどん薄れていくと思います。ぼくは本当はもっともっと自然に対して大切にしていこうよという時代になるとばかり思って期待して、できるだけの協力をしてきたんですが時代は逆です。このまま行ったらえらい事になります。

自己紹介 四代目江戸家猫八を継いだ経緯

まだ子猫が出てきたと思う方がいるので、まずは私が江戸家猫八であると言う事を分かっていたらこうと思うんです。ぼくのおやじが3代目猫八なんです。でぼくがこの度四代目になりました。考えてみたら一般のご家庭の方に

は何代目という事はありませんからね。

じゃあもっと分かりやすく言いましょう。江戸家猫八という名前、ぼくで四代(よだい)目です。一番はじめは初代です。この人がぼくの祖父です。つまりおじいちゃんです。その祖父が昭和7年に亡くなったときにうちのおやじがまだ12歳だったものですから、すぐに跡を継がないという事で、そのおじいちゃんのお弟子さんが二代目を継いでおります。それで戦争が始まってうちの親父が現役で戦争に行きます。戻って来て改めて昭和25年に三代目の江戸家猫八を名乗りました。その後はテレビ・ラジオの時代になりました。だから皆様がよく知ってらっしゃる猫八といえばぼくのおやじという事になるんですね。

ですからおそらくぼくがこうやって説明していてもなるほどなあと分かってもらえずに頭に残っているのはおやじの猫八で、猫八が亡くなったので今度は子猫がが猫八に

なった・・・そんなものでしょう？

要は何かと言いますと、代々伝わっていく芸のなかで私は子どもの時からおやじの芸を見ているから、その中からおやじの芸を継ぎたいと言う志を立ててこの道に入ってきて、お陰様で今ではぼくが江戸家猫八になってやっているとこういうことなんでございますね。

今、痩せて見える理由

あともう一つこういう会に来たときに必ず申し上げるのが、子猫時代にやっていた頃より痩せました。みんなに言われるんですよ。これ病気じゃなくて一には体質なんですね。医者先生に聞いたらあんまり気にすることは無いんだけど、要するに年を取ってくると、痩せ爺になる人といわゆる太った爺さんになる人と大きく二つに分かれるんだということです。そういえばばかにほっそりした爺ちゃんっていますよねえ。だけど決してその人弱いわけではありませんからね。むしろ普通のお爺さんより丈夫なぐらいなんです。そういう痩せるタイプの人がいるんです。そんな事は知りませすぼくは健康のためにはいろんなことをやりました。

まずは食生活、大事ですよ。ストレスためない事とか色々な事がありますけど、ぼくは適度な運動というものに一番重きを置いたのです。それでいわゆる筋トレやったり、スクワットやったり、そういう所までは良かったのですが、マラソンを始めちゃったんですよ。

知ってますか皆さん、マラソン。ジョギングじゃないんですよ。

ぼくはもうマラソン大好きで、なんでそんなにマラソンが好きになっちゃったかという、西表島って知っている？（会場の子、きょうだい：イリオモテヤマネコがいるところだよ）・・・こんなに嬉しい事はありませんよ。だってさあ、イリオモテヤマネコを知っているって君いくつ？（7歳 10歳）イリオモテヤマネコをちゃんと知っているのはご両親が立派ですね。（同：絵本がある）そのイリオモテヤマネコのいる西表島でヤマネコマラソンというのがあるんです。10kmと23kmがあるんです。ぼくはいくら好きだと言っても大変なので10kmの方に出ようという事で、かなりハードなトレーニングしました。

たくさんの人が出るんですがみんな慣れてるんでかなり速いんですよ。自分より年寄りだと思ふ連中がずっと速かったりするわけ。悔しいから毎朝早く起きて、夏場なんかから時頃起きて全力で、走って、走って、走って汗かいて、まあ良くやりましたね。それで念願の10kmを1時間を切るというのを実際にやりました。

スポーツ選手ならこのぐらいの10kmを1時間なんて自慢にもならないのですが、アマチュアとしては下手をしたら1時間以上から2時間近くかかる人もいますからいい方で、良かったなあ次はハーフ（23km）に挑戦とまたまた続けて走っていたら、体重がどんどん減って行ってしまった。痩せる体質なのにおさらそんな事をしたものだからからだが絞られてしまったのではないのでしょうかね。

それで家族の反対がありまして、「あなたは何をしたいんですか？あなたの仕事は何ですか」と、「ステージでやる以上は皆様に見ていただいて、こんな長い説明をするわけにいかないんだから、それだったら休むなり、止めたりしたらいいでしょう」と。

それで走るのだけは今止めています。またそのうち太って来ると思いますから、その時にお会いしましょう。

芸を受け継ぐ・・・そして動物にも個性がある

おやじの芸というのはぼくにとって大変魅力のあるものでした。うんと小さかった頃、3歳ぐらいたったかなあ。お袋がぼくの手を引っ張って寄席みたいな所に連れてきてくれまして、何も知らないのですよ、それまでは、「お父さんの仕事をちゃんと見ておくんですよ」と、で舞台を見ていたらなんと、うちの親父が舞台の真ん中でニワトリを鳴いていたんです。ー（ニワトリの物まね）ー（拍手）驚きますよね。びっくりして目をまん丸にしてしばらく見ていたんですよ。そうしたら皆さん、それだけではすまない。そこにお袋が「おまえも大きくなったらあれやるんですよ」と言うんじゃないですか。なおさら驚きましたね。

まあそういう環境ですからやるようになったんですよ。

こんなニワトリの声一つだってやるとなると結構大変なもんですよ。何が大変かということ、コケッコーと鳴いただけでは勝負にならないわけ。まず「ワ〜ウ、ココッコッコ〜」（以下文字表現困難）・・・（拍手）

みんな知っていますか？ニワトリにも気の長いやつと短いやつがいます。動物って言うのは、生物多様性とか言いますが調べると色々な種類がいてみんなつながっていて色々な個性を持っているけど、これは本には出ていませんね。つまり、性格によって鳴き方が違うっていう事です。これは新たに研究しなければいけないと思っています。

気の長いニワトリは鳴き方が長いんです。ー（気の長いニワトリの声）ーずうーと鳴いています。で終わったかと思うとー（鳴き方の続き）ー（爆笑）。次、気の短いニワトリー（気の短いニワトリの声）ーこれでおしまい。（笑い）

面白いでしょう。これ、もちろんウソですよ。（笑い）

そこに楽しさがあります。それから、ニワトリの生きものとしてのかわいらしさがあります。そこがとても大事なところではないかと思うんですよ。色々な動物が首かしげたりなんかしてね。色々想像して何だろうね。あれ見て何を思っているのだろうかしらと想像してね。片や「動物がそんな事考えるはずがないわ。たまたま首かしげてるだけでしょう」、それじゃ面白くないじゃないですか。

だからぼくらの芸というのはある意味動物を擬人化するんです。人と同じようにね。そうすると楽しい話題が起きてくるんですね。たとえば今の鳥の気が長いとか短いというのだってさあ、おかしいから皆さんわーっと笑ってくれるじゃないですか。そうするとそこで、楽しい笑いの芸、笑いの物まねのいわゆるパフォーマンスが完成していくわけです。

これを大事にしないと。ぼくらの芸は笑ってくれないと何も成り立ちません。今日だって今、やっとこれだけ笑ってくれているけど、それまでは足りないぐらいなんです。いいですか、お客さん。すまして座っていたらだめなんです。今ぼくがしゃべっている事をよそでやったら爆笑ですよ。

どこがどこが違うかと言うと皆さんのスイッチも違うんですが、今日は勉強だみたいな。勉強などしなくていいですから、勉強したってろくなことは無いから、勉強っていうのはむしろ自然に入ってくるものなんです。だから全体の話をやっていくうちに先ほどの話だってなんだったって記憶に残っているから、アアそうなんだというようにそこで勉強になるわけなんですよ。目の前で聞きながら勉強、勉強、

ってやっだってそうすぐに知識が増えるわけではありません。第一皆さん自分の年を考えて見て下さい。やはり皆さんチャレンジ精神というか、がんばりたいという事は大事だと思います。

鳴きまね紹介

今日はちょっと皆さんに物まねを一つお教えしましょうかね。指笛というのをぼくはやっております。今ノドで二ワトリをやっておりましたが、指笛で音を出すと、ー（指笛で、2種類の野鳥の声）ー（拍手）本当はもっと響くのですが今日はマイクの調子があまり良くないようです。人のせいにははいけませんね。（笑い）それからね、ー（指笛で更にもう2種類）ー 全部わかった人、いない。1個わかった人 ・ ・

ー（指笛で先ほどの最初の鳥の声）ー これはホトトギスです。目に青葉、山ホトトギス、初鯉。次に鳴いた、ー（指笛で2番目の鳥）ー これがオオルリという鳥です。胸が白く羽が青い鳥です。栃木県の県の鳥ですが、とってもきれいです。その次に鳴きました鳥、ー（指笛）ー わかる人いる？ あー何人かいるわ。ちょっとまっ



てね、（会場男の子に向かって）折角ぼくが手を上げているから。わかんなくてもいいんだよ。わかんなくていいの。言う事がえらいんだから。（男の子：ルリビタキ）ルリビタキ、君はえらいな。全然違うのにこんなに自信たっぷりです。でもね、君がルリビタキという鳥を知っていることと、もしかしたらルリビタキで当たるかなという気持ちで答えてくれた。これは周りです。ただただシーと押し黙っている大人たちと比べてどんなに立派なことだと思いませんか。（笑い）（拍手）

いいですか、皆さん今日からもっと子どもみたいになって下さいよ。何でこんなにおとなしいの？皆さん。（笑い）自然の事に対してこれからどうやって行ったらいいのだろう、そのことを一つずつ考えるにしたって、彼みたいな発言力と、もしかしたら違っている事を言っちゃうかも知れない。・ ・でも違ってるとはものすごく大事な事なんです。これ違うよね、という事を周りの人も感じ、自分も感じたらそれは違う事だとそこで分かる事なんです。そういうことを日本人は心の中や、頭の中で閉じ込めすぎ。絶対だめです。そんなの。なんのためにここに集まっているの。

ルリビタキは残念だけどね。一番前のおじさんにわかっている人がいるようだから教えてもらおうか。

ただいま鳴いた鳥、なんという鳥でしょうか？

（参会者、思い出すのに少々苦労して：サンコウチョウ）

当たっております。はくしゅ〜う。（拍手）このサンコウチョウって、有名な鳥ですよ。静岡県県の鳥で、ジュ

ピロ磐田というサッカーチームがあるでしょう。あそこの旗になっています。尻尾が長いです。旗がサンコウチョウなののですが、意外に気がつかないでしょうね。

日・月・星、ホイホイホイと鳴き声で三つ光るものを持っているから三光鳥といわれるようになりました。ー（サンコウチョウの真似）ー これがサンコウチョウの声です。もう一つだけちょっとお遊びしてみましょうね。

最後に鳴いたこの鳥はー（指笛）ーこれはなかなか珍しい鳴き方です。いつもこの鳴き方ではないのですが、本鳴きの時はぼくは何回もこの鳴き方を聞いています。これはすばり名前を申し上げます。イカルという鳥です。

イカルという鳥そのものを知っていらっしゃる？存在とか、結構いらっしゃいますね。鳴き声はどっちかって言うと、ー（指笛）ーくらいで、あんまり本鳴きしないんですが、今のがイカルの本当のしっかりした鳴き方です。ー（指笛 しっかりした鳴き方）ー これは何んて言っているかと言えば、「オキークー。ニジュウシ」と鳴いているのです。「お菊二十四」、鳥には意味が無いのですが人間が勝手に付けました。お菊というのは女の人の名前、二十四というのはその人の歳なんです。お菊さん二十四になったからこの鳥はお菊二十四、お菊二十四と言って山中飛んでいるよというのがききななしのもです。ー（もう一度指笛でイカルの声）ー（拍手）

こういうのが楽しい知識になって来ます。色々なところで色々な動物の物まねをやります。面白い事がありますよ。

犬やネコ、ー（犬の声）ー ネコ鳴くよ。ー（ネコの声）ー ・ ・ ・

所が面白い事っていっぱいあるんだ。小さい子どもの会がありましてね。ネコを鳴いたら、何と忘れもしない一番前の男の子がね「なんだそれ、普通のネコじゃないか」というんです。（笑い）すいぶんいろんなネコを鳴きましたがね、普通のネコと言われたのは初めてでした。「君はなんか変わったネコを知っているのか」と聞いたら「うちの近所のネコにはもっとすごい声でワーワー鳴くのがいました」って言うのです。そこまでいわれれば何のことだか分かるでしょう、皆さん。（笑い）・ ・ ・シーズン中はいるじゃないですか。それをやれと言うのです。それはやりますよ。私だってレパトリーの一つなんですから。だけど子どもばかりの会ですよ。皆さん。（笑い）説明のしようが無いじゃないですか。ねえ、で困ったからぼくは、分かった、分かったそれはネコが時々仲間同士で喧嘩する声なんだと言う事にしてそれをやりました。全く皆さんがご存じのシーズン中のー（ネコのその声）ー（大笑い）

そしたらなんとその隣のやつがすーっと立ち上がって、「なんだそれ、さかりじゃなねえか」（爆笑）・ ・知ってたら早く言えって言うんです。

あとは活発な話し合いをしましょう

それであの実ほく、30分くらい物まねやってその後対談という事になっていますが、対談も物まねを散りばめ



ながらやっていったら楽しくていいと思うので、取りあえずぼくのものパフォーマンスはこれくらいにして、あとはぼくも楽しみしにしている対談で皆さんのご意見を聞きながら、私はこういう立場ですから椅子にじっと座って待っているのではなくて、聞きに行きますから、ね、有意義な会にしましょうよ。

今まではこういうことをやっても誰も意見を言わないのね。そういうことの無いように。今日は絶対にそういう会には絶対させません。折角集まってもらったのだからつまらないではありませんか。どんどん皆さんいろいろなことを言ってください。

それにしても、おしまいに今年の干支（えと）をちょっと皆さんに聞いてもらおうと思います。今年の干支は分かっていますか？ そうそう申（猿）年ね。大体干支の子・丑・申・・・全部ネタは入っていますから、

今年の場合は申と言っても普通のサルじゃないの。ぼく

のネタはフクロテナガザルというの。これはすごいよ。声が。ノドに袋がついてます。これを膨らまして鳴くからね、ものすごい勢いで声が出ます。ー（フクロテナガザルの声）ーすみません、顔も見てくださいね。全然違うでしょう。迫力が。これを動物園で勉強したのですが、気にいっちゃってね。どうするかって、うちに帰って練習するのですよ。練習してマスターしてまた動物園に行ってチェックしてまたうちに帰って聞いて、段々完成するわけですよ。で、まあまあできたかなと言うところで我々プロの場合は最終チェックというものが必ずあります。それは何かというと、本物の前で鳴いてみるって言う事なんです。（笑い）

こんな重要な事はありませんよ。だって反応みれば鳴き返してくれるとか、集まるとかあれば完璧でしょう。それで楽しみにして行きましたよ。そして鳴いてみました。ー（鳴く）ー そうしたら皆さん、集まる、集まる（笑い）いや、サルじゃなくて、他のお客さんがいっぱいでした。（爆笑・大きな拍手）



3 野鳥なんでも相談

四代目江戸家猫八師匠 & 藤井 幹氏

猫八師匠と藤井氏に、会場から質問を受け答えて頂きました。藤井氏からは実践に基づく具体的な話、猫八師匠からは、自然に対する思いが語って頂きました。特に、猫八師匠から最後に「本日のまとめ」としてお話いただいたことは、熱く聴衆に呼び掛けるもので、改めて録音を聞くと師匠の遺言が込められていたのだと、胸が熱くなる思いです。

文中 Q は質問 AN は猫八師匠、AF は藤井氏からのコメントです。

Q 家の近くの森が多かった場所が開発されて宅地になり、野鳥が来なくなった。自然がなくなることについてどうしたらいいのか。

AN 自然がなくなって鳥も来なくなったことについて心配して下さい。鳥は1人ぐらい心配してくれる人がいることを喜んでくれる。鳥が大事か、人が大事かという人がいる。バランスが大事。昔はそれでも良かった。これからはそういう時代ではない。

自然の大切さ、自然のおかげでぼくたちは生きているということをしるしを思わない人がいたからこうなった。あとはみなさんで考えてください。

Q 私の行っている学校は自然が豊かなところにあるが、バードストライクが良く起きる。どうしたらいいか。

AF 鳥は何とぶつかるの？ 窓ガラス？ 窓ガラスに何か対策をしていますか。（何もしていない。）窓ガラスに鳥がぶつかるというのは、そこにまわりの景色が映っているからと言われます。ガラスに猛禽の形をしたシール、バードセイバーを貼る事がよく行われます。

もう一つは、窓ガラスの内側に何か物を置いて鳥に来る場所ではないことを示してあげるのがいいです。先生と相談して対策して下さい。

Q 中津川河川敷の雑草がいっぱい生えているところに花を植えようと思って土をいじっていたら30分ぐらいの間に小鳥が集まってきた。鳥はどうしてそういう場所がわかるのか。

AF 鳥が耕したところや草刈りをした所の集まるのはよくあることです。

鳥はかなり広い範囲の間で行動しているので、その間に人間が何かしているところを目ざとく見つけて集まってくる。鳥が五感を働かせて餌を探していると言うより人間の行動をよく観察してると思った方がいい。

AN いい人ばかりでないこともよく見ている。

バードウォッチングで私はできるだけ大袈裟にしないで、双眼鏡なども目立たないように持って行く。そのようにして1人でぶらぶら歩いていると、珍しい鳥がひょっと目の前に飛びだしてくる。友達といっしょに行くんですよ。みんな迷彩色の服で、機関銃のような望遠鏡を持って、そんなときは鳥は一匹も出てきません。

向こうはちゃんと見ているんだということを大事にしてあげるとこれからの開発は変わってくると思うんです。相手のことを思ってあげなければ、なんでも経済が豊かであればいいんだとか、儲かればいいんだということも、そういう所から答えが出てきそうです。

Q 最近都会に進出してきている鳥、コゲラは聞いているが他にこれから進出してきそうな鳥は何か。その原因とか、分かれば教えて欲しい。

AN コゲラなんか昔からよくいる。気がつかなかっただけ。オナガとかツグミとか、ウグイスなんかよく近所で鳴いている。前からいるんだけど多少増えているというのはあるかも知れません。

逆に減っているのもいるかもしれない。増えているのは餌ですね。山奥ではなく、里山みたいな中間的なところでやっていけたのが開発されて、そこがなくなって都心に来ると、ちょっとした公園のような所など実がなっていたりするところがあるので、苦しみの中で都心部へやってきているのがあり得るかも知れません。

AF 師匠が言われるように昔は普通にいたんです。それが開発が進んだ段階で少なくなっていった。都市開発が進んで山と都市の間が分離されてしまったからコゲラは来られなくなった。それが庭に木を植えるとか公園を作ったりして都市の中に緑が増えて、山と都市の間をつなぐものができてきた。それによって鳥が入って来られるようになってきたというのはあると思います。

また、個人的な感覚では意識を向けることによって見えなかったものが見えてくる事もあると思う。ワカケホンセイインコの調査をしていて、あんなに目立つ鳥が飛び回っているのを人は気づかないはずはないと思うのに、毎日散歩している人から何を調査しているんですかと聞かれることがありました。

話すとなんな鳥がいるんですかとびっくりされた。誰かに言われて気づくことから増えているという感覚になる人もいると思います。

それにしても、昔はいたが一度いなくなって、緑が増えることによって山の鳥が街に入ってくるようになったという流れは一つあると思います。

司会 これから増えそうな鳥としては、チョウゲンボウがビルに巣を作ったなどと言う話を聞きますよね。あれも増えるのではないのでしょうか。

AF 岡田に住んでいるのですが、チョウゲンボウはすぐ裏で繁殖していて屋根の上でキキキ鳴いています。この先どんどん増えるのではないかと思います。餌はたくさんあるんですよ。イワツバメもたくさんいるしスズメもいる。そんなのをどんどん取ってきているのが見えます。

AN 田園調布でもツミが巣を作っているし、結構多いです。でも申し訳ないけれどこれからどんどん増えていくということもないと思う。年によって多いこともあるし、鳥の数というのは1年や2年見ても結論は出ないと思います。長い間の観察で傾向が分かるような資料が出てきたときに言えること。鳥たちは羽がありますから、結構行動範囲が広いので分からないことも多い。ただ興味を持ってくれる人がたくさんいることが最も大事なことだと思います。

司会 今の話で思ったのですが、本厚木の駅前に夕方になるとハクセキレイがいっぱい来て飛び回っていますよね。見ていると、みんな知らん顔していますね。不思議です。

AN それは簡単な話で、鳥が好きか嫌いかということだけですね。鳥に興味を持ってもらったり、クレイジーになってもらうとかじゃないんです。ぼくの言っていることは。鳥というものが自然の中で生きている生きものと

して、ものすごく重要な位置なんですよ。ただ鳥がええずっている、鳥が歩いているという感じでいいと思います。何もその種類を調べてみようとか、そうなるかとまた趣味のことになってしまう。

Q 渡り鳥と外来種は何が違うのか。

AN 実は、分かりやすくもあり、複雑でもある質問なんです。外来種というのは主に人間が関与して入ってきた鳥が多いのですが、そうではない場合もありますので。

AF 外来種と渡り鳥の違いは、渡り鳥は基本的に翼が空を飛ぶものです。日本は島国なので周りを海に囲まれていますので外国からも入ってくる。そもそも渡りという言葉は日本だけの言葉で、鳥が繁殖地と越冬地を、日本だけでなく違う国と行き来している場合、繁殖地が北の国で越冬地が日本なら冬鳥。逆に日本より南の方が越冬地で、日本が繁殖する場所なのが南から入ってくるのが夏鳥。これらを渡り鳥と言うのですが、外来種となると、基本的には猫八師匠が言われるように人の手によって導入されたものです。

場所によっては鳥が渡り鳥としてやってきたのか、人が放してしまったものなのか区別がつかない場合もあります。基本的には人が持ち込んで、例えばペットとして持ち込んだのが逃げ出して、繁殖して定着したものだ。本来そこにいなかったものが人間の手によって入ってきたものことです。

AN 外来種、確かに外から来ちゃったやつです。その外来種には二通りあります。カササギのように昔、豊臣秀吉に献上するようになって侍が二羽か三羽持って来たのでしょね。それが居着いてしまって、今では佐賀で県の鳥になっちゃった。そんなものもあるし、コジュケイのように狩猟鳥で入れたのがいつの間にか居座っちゃってそんなこと知らないで日本の鳥だと思っている方も多いうんです。それならいいよということでもないんです。(害のある外来種)

ただ外来種で一番困るのは、商売のためにミシシッピーアカミミガメがどんどん入れられているわけですよ。それがどんどん池に放されて、ものすごく増えます。それでどうするのかというと、駆除も何にもしない。どうということになるかということ、池によって違うかも知れないけど、ちょっと郊外の方の池であると、在来種であるイシガメとかクサガメとかそういうものが絶滅しちゃうんですよ。だから困るんです。そっちのタイプの外来種。他の連中もそうです。オオクチバスでもそうだし、もっと激しいのではワニとかヘビとか、おかしなものを持ち込む人がいっぱいいます。全部商売です。それを買う人がいます。カブトムシなんかひどいものですよ。カブトムシ(外国から)入れちゃうんです。売れるから。買う子がいるけど、飽きちゃう子もいる。死にそうになったからって逃がしちゃう子もいる。それが今度は在来種を脅かすだけでなく、昆虫は気をつけないと交雑をします。そうするとわけが分からなくなるんですよ。それをヘラクレスだかなんだか、空を渡って一生懸命帰ろうとしても帰れない日本に到着して、なんだかわかんないけどこんな所に来ちゃったと言って、寿命がある限りそこにいて、死んでいって、こっこのタイプの外来種だったら何もそこまで殺すことはないでしょう。でも商売のためにどっさり、がばっと入れてるんですよ。それでしかも、ペット業界というのは、ここに関係者の方がいたらごめんなさい。ここでぼくだけの責任のコメントを

申し上げますけど、売れないで、余って、大きくなってきたらペット業者が捨てるんですよ。とんでもないことやってるんです。そういう理由のために日本の在来種がみんなメチャクチャになってしまっていていいんですか？

っていうことですね。ただしそれはほくは申し上げますけれど、もっと規制を厳しくしろとか、取り締まろうと言うことよりも、子どもの時からしっかりとした環境教育をして、外来種は買わない、飼わない。それは外国のものだから、楽しいからと言って、観賞用にしたいからと言って、そういう事がもっともっとひどい弊害があるということをしっかり勉強して、飼わないことです。

日本にだって、いい動物や、鳥や、金魚などいるではないですか。そういうことをこれからの人間が学ばなければ間に合わないんです。今は本当にすれすれですね。もう規制しようとか何とか言ったらって利害が絡むから政府だって動こうとはしませんよ。特定外来生物を決めるんだって、ミシシッピーアカミミガメは数が多すぎるから外しますとか、何をバカなことやってんの。どうしようもないことなんていっぱいあるんです。いちばん大事なのは、ほくたち庶民レベルが外国の鳥や動物を飼わない、それに犬やネコもペットもいっしょですね。飼ったら一生飼う、捨てちゃいけないよって、それとおなじように外来種（を飼う）なんてもう止めましょうよ。日本では要らない。それが外来種にとっても幸せなことだし、そういう習慣ができれば子どもたちだって泣きわめいて、飼いたい、飼いたい、欲しい、欲しい、なんて言やあしません。そういうことが、これからは一番大事なんです。環境教育の一端として、外来種について、私はこういう気持ちを持っております。如何でしょうか。（拍手）

Q カラスが増えて困っている。どうすればいいか。

AN 厳しい質問でございます。カラスはやはり野生ですしねえ。そうそうカラスを退治しよう、やっつけちゃおうと言うわけにはいかないんだけど、今の現状を見ておりますと、あまり多すぎてもね・・・。ただ藤井さんにもう少し詳しく話してもらいますけど、ほくの知っている限りでもじゃあ、例えば公園とかがカラスだらけになっちゃたから駆除してという、ある数字になれば国は駆除してくれます。駆除する施設もありますね、だけど不思議なもので、駆除してもまた増えちゃうんですね。そこにいるやつだけがいなくなれば OK というわけではなく、予備軍が周りにいっぱいいますから、ここが空けば、よしオッケーみたいにまた来ちゃうんですね。だからカラスの根本的な解決、これはもう、私のジャンルではないし、藤井さんも一口ではなかなか難しいでしょうけど、こんな事では何とかならないかというプランでもあれば皆さんに教えてあげてください。

AF カラスの、多分ハシブトガラスのことを言われていると思うんですが、カラスの数を減らす一番いい方法は、皆さんのごみの出し方、これが一番です。大阪など夜間にごみを回収しているところではカラスはそんなに増えていません。昼間ごみを回収するのを止めると、厚木市にそうしろと言っているわけではないんですけど（笑）そうすると劇的に減ります。でも皆さんに考え方として分かって欲しいのは駆除をすることと、餌を減らしてカラスを減らすことは、結果的には両方カラスがダメージを受ける方法です。人間が直接手を出して駆除すること、これは可哀想だから止めましょう、餌を減らしてカラス

を減らしていく、これはいいことかと言うとこれは大間違いです。カラスにとってみれば餓死をするか、直接人間に手を加えられるかです。人間からすれば目に見えないところで死んでくれる。餌を減らすのだからいい、かも知れないが、どんな方法にしろカラスにはダメージを与えて減らしていく。見えないからいい事ではないと言うことだけは分かって欲しいと思います。

AN 一言だけ添えさせていただきますと、カラスは江戸時代だって街にいましたよ。ただその数の異常さなんです。これはほくはデータ取ったわけではないので、皆さん方はもう少し詳しく調べてみて下さい。例えばカラスだって、今、動物でもタヌキとかハクビシンとか色々いますよね。そういう連中が都心部にどんどん出てくるようになってしまった。これは当然、餌があるからだと思うんですが、昔はそんなには出てこなかった。クマもみんなそうです。それは彼らの、都市と、山とちょうど中間ぐらいにある里山ですね、そういう所で何とか生活ができていた。鳥の場合は里山から森に帰って森にねぐらを持っていた。自然とのバランスが出来ていたということは、あると思います。

それが今はどっちかという、人の住んでいない森から一歩出てくると道路があってセブンイレブンがあるみたいな、完全に都市化しているわけですね。そうすると中間のカラスたちはおれたちそうジャングルだけでは生きていけないからって言って直接ぼんと出てきてしまう。そういうグループがいるんじゃないかと、その辺はデータをもう少し調べないといけないと思いますが、やはり人間の都市密集型、人間の暮らし方、そういうものに影響されていることもかなり大きいのではないかなと言うことを、むしろ皆様方に宿題としてお持ち帰りいただいて、調べてみて下さい。

AF 今の猫八師匠の言葉に関連して、最近カラスが増えた原因として、ごみの出し方は先ほど言った通りなのですが、食べ物を残す、残したものを捨ててしまうことが直接カラスの餌になってしまうので、やはり私たちの生活が豊になりすぎて、食べたものを残飯としてどんどん捨ててしまうと言う、その生活の豊かさが起こしている原因が一つあると思うのです。ですからその点をひとつ指摘させて頂きたいと思います。

Q 相模大関にコアジサシの営巣地があり、かつては1千羽ほど来ていた。去年は0、一昨年は23羽で少なくなってしまった。水道企業団さんが管理して、野鳥の会も協力している。何で少なくなったのかと聞いても分からない。何でこんなに少なくなったのか、まわりの環境が変わったからなのか、相模大堰が出来たことが関係するのか。

AF 相模大堰については確かにコアジサシの営巣していて、先ほどジオロケータ調査に関わった話をしましたが、あそこでも標識を付けて回収もできています。コアジサシは基本的には漂浪癖があるので同じ場所にずっと毎年来るということはないという事が分かっています。性格の問題です。

どんなにいい場所でも、こちらがコアジサシのためにいい場所にしようとか何億もかけて整備しても来ないことがある。来ててもその年だけでどこかにいっちゃう事もある。だからいい場所を作ればコアジサシが来るということではなくて、たまたま来て、ここはいいなと思って一羽が降り立つ、それを見たまわりの鳥がじぶんも降りて

みようとする、それが段々増えてそのうち1千羽になったということだと思ふ。それが次の年にはたまたまそこに来なっただけかも知れない。かなり私たちを困らせる性格を持っています。保護したくてどんなにいい環境を作っても来ないときは来ないんですよ。来ても一年で終わってしまったりします。全国調査でコアジサシの調査をやっていく中で5年以上同じ場所で営巣した場所は本当に少ない。数カ所だけです。大体場所を変えます。相模大堰も環境が悪くなったから来なくなったのではなくて、彼らの性格があまりよろしくないから（笑）と思っただけだと思います。もしかすると、来年かまた次の年に来るかも知れない。

もう一つは、捕食者の問題がある。コロニーというのはカラスにしても、哺乳動物、例えばネコだったり、最近ではアライグマもいます。あとは最近増えて来ていると言ったチョウゲンボウなども目を付けやすい場所なんです。ヒナがいれば簡単に餌が取れるいい場所なんです。それが1年目だったら気づかれないと思うんですね。2年目になると、みんなそろそろ来るなと感づくわけですよ。そうすると1年目より2年目の方が襲われやすくなる。3年目になるともう全然だめです。あつという間に全滅させられます。そういう意味でも彼らは場所を変える、そういう性格を持っているかも知れないので、同じ場所に来なくなったから環境が悪くなったのかなと思うことではない、と考えていいと思います。

AN えーと、皆さんご存じだと思いますが、コアジサシというのは森が崎（東京都大田区）の下水道処理場の屋上に毎年相当数来ます。ほくも毎年観察に行っていますが、環境的には屋上で、皆さんの努力で砂利を運んだり、こんなところ来んのかなあと思ったら、まあ、それが気にいっちゃって、言ってみれば天敵が少ない、カラス除けがしてありますから。さっき藤井さんがおっしゃったようにどこで鳥たちが安全ということを見ているのかは分かりませんが、なにかやっぱり居心地の好いところがあるのでしょうか。しかしそれも藤井さんのおっしゃるとおり、いつそれが変わるか分かりません。言ってみればあんまり来なくなっちゃったなあとか、今年はこんなに来たとか一喜一憂はしない方がいい。大事なそれはそれを続けていくことだと思います。そういうことを続けていくことによって、鳥を守ってあげようということを守っていきながら、いい時も悪い時もあるし、またその途中経過などからもっともっと安定感のある、鳥たちが都心のそばで過ごせるいい場所ができていくかも知れません。

猫八師匠によるまとめ

だいぶ終わりが近づいたので、まとめのお話をさせていただきます。

とても大事なことは何かと言ったら、やはり自然というものの大切さ、僕たち自然のおかげで生きているんじゃないでしょうか。これ意外とみんな分かってないんですよ。空気吸って、水飲んで、緑豊かな、周りを海に囲まれて、水生生物、魚たち、小さな微生物、昆虫、虫たち、野鳥、動物、哺乳類、みんなに守られてほくたちの地球が、46億年前から何十億年もかけてやっと今、ちょうどほくらの生きやすい奇跡の星ができてきているのです。言葉はちょっと乱暴かも知れないけど、私ははっきり申し上げます。この奇跡の星、こんなすばらしいところを、今、人間自身が壊そうとしています。です

から皆様方に一番分かって欲しいのは、この鳥を守りたい、この鳥を可愛がってあげたい、すごく大事なことです。でも今やそれだけではないんです。もっともっと人間のために、例えば光合成のことだって分かるでしょう。地下水の問題だってありますよね。川が流れてますよね。伏流水がありますよね。海からすごい栄養が上がってくるのではないですか。そういうシステムが今壊れそうになっているんです。ほくは大袈裟に言っているわけではありません。いろんな関係者の方から話を聞いています。十年前、二十年前その辺の頃とは全然わけが違います。なぜかって言ったら過剰なんです。開発が。

ひとつだけ、たとえ話をします。これは政府批判でもなければ、反対運動でもありません。リニアモーターカーなんて言うものを通す事によって、どんなに地下系が狂って、どんなにそのために自然が壊されてしまうのか。

通るところだけを調べるのがアセスメントなのです。通るところだけじゃあだめなんです。生物多様性、おわかりですよ。30万種の生きものが地球上で生きています。もっといるかも知れない。そしてその生きものたちは、生きものだけでなく、その生きものが全部つながりを持っています。そしてその生きものたちの生息地も全部つながりを持っています。簡単に言えば山があって、川が流れて、海があって、海からまた川を遡上してくる魚たちがいる。そいいう循環、もっと簡単に言えば、水蒸気が上に上がって、雨が降ってきて、それがたまり水となって、きれいな水になってほくたちの元に戻ってきたり、そいいう小学校の時に習った自然の循環、自然の循環の中でほくたちは生きてきたんです。

今まではさっきも申し上げましたように、ある程度開発をしても、たとえばの話、新幹線を通しました、北海道も今度できます、それから金沢、便利になりました。その辺までは、なんとかほくはセーフだと思います。新幹線だって、これまでどんなに自然を破壊したか、里山がなくなっちゃった、地下水も出なくなった。いろんな所でいろんな人の話を聞いています。それでも今までは何とか、さっきも申し上げたように自然大丈夫かなあ、「ここまでは使わせていただけますか、まあ、昔のまんまがいいけど人間の暮らしもあるだろうから、その所まではいいよ」と自然が言ってくれるかのようにほくたちは許可をもらってやってきたつもりです。また、そうあるべきなんですよ。それが今、どうなんですか。そんなこと考えないであんなとこに穴掘って、地下系ぶっ壊してどうなるかなんて、誰も分かりませんよ。

それで、途中の村にミゾゴイって行って、本当に守らなければいけない鳥がいます。そのアセスメントで行った人が、向こうの枝に止まっていたからこっちは関係ありません。バカじゃないかって、それが調査なんですよ。そんな（ばかな）ことないだろうって。それだけではありません。その地区を壊すことによって、つながっている生息地はミゾゴイだけでなく、他の生きものにも全部影響するのです。更にほくが先ほど申し上げましたように動物や鳥のことばかり言っていると、どうしてもそういう団体だろう、そういう意見なんだろうと思われがちですけど、そんな問題ではないんです。

本来この恵まれた46億年の歴史の中で、今一番いい状態の地球の上で少しでも人間たちがみんな仲良く住んでいく上では、本当に、皆さんに申し上げますけど、今、もっともっと考えなければだめです。そして最後に申し上げますよ。そのリニアモーターカーを敵にしたように申し訳ありませんけど、私の意見だけかも知れない

けど、何も名古屋まで40分で行く必要は無いでしょう。じゅ〜ぶんじゃないですか。いまこれだけ豊かで恵まれていたら。

じゃあなんでそんなことをやっているのかと言えば経済効果ですよ。それと同時にそれを完成させることによって技術を外国に売れるということです。これも経済効果ですよ。全部、経済、経済、経済。経済のために一番大事な自然を失っています。じゃあ申し上げますけど、失った自然を考えてください。どのくらいの価値があると思いますか。お金には換えられません。十億、百億、千億、一兆、・・・とんでもない。もう、とんでもないくらいの財産なんです。それを何でそんな、たかが技術成長だ、たかが経済効果のためだ、そんなために無理矢理やるんですか。今ぼくが言っていることをみんなに理解して欲しいです。そしてさっきから言っているように、今までのことは有り難いけど、もういいでしょうということですよ。じゃあなんでもかんでも開発は悪いのか、アレルギーになるか、そういう問題じゃないんです。もうここまでやらしてもらったんだから、これから先はいいいんじゃないですか。それよりもむしろ自然を大切にされた方が、自然そのものの経済効果の方がうんと大きいのではないのでしょうか。そういう考え方で物事をやるか、やらないか、という判断をして頂きたいです。

なんでもかんでも経済第一、GDP だかんだか知らないけれど、世界で何位だか関係ないじゃないですか。それぞれの生まれた国で、それぞれの生まれたふるさとで、みんなが元気で家族で暮らせればその方がずっといいでしょう。経済効果などが先行しているから世界の戦

争が終わらないんです。どうして違う道、違う結論、違う話し合いができないんでしょうか。辺野古の問題だって、ほくに言わせればそういうことです。あんなにすばらしい、二度とできないような海の自然、サンゴ、シュゴンが泳いでいる。それをたかが戦争の準備の、基地だかんだか知らないけれど、そんなの作って何の人間のためになるんでしょうか。そちらの方を考えて頂いた方が今後の日本を救うことになるんだと私は思います。(拍手)・・・有り難う、拍手して下さいの方も、しなかった方も、(笑)ある程度はご賛同戴けたものと思います。

まあ、兎に角、あまり反対だとか、やるなだとか言うよりも、こうしなかったらどうしようもないよね。自然をもっと大事にしようよ。自然に感謝しようよ。自然に対してもっと尊敬して、敬愛の念を持って、そして1日、朝起きて空気が吸えて・・・こんな毎日が送れることが、ど〜んなに幸せなのか、世界の難民の方はそれが分かっています。難民じゃないほくら人間は分からないのです。

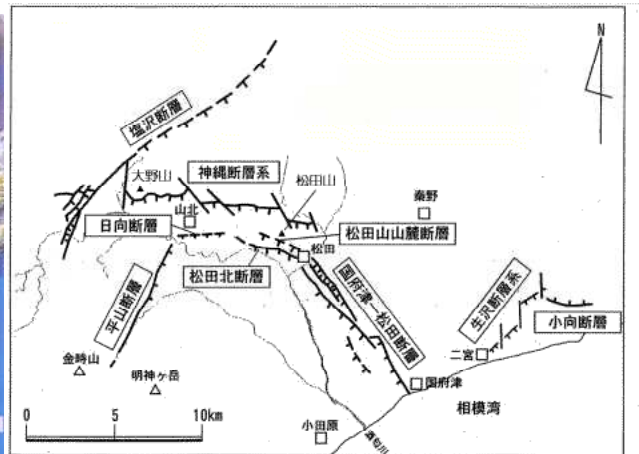
でも、難民の方たちみたいになっちゃったら、それからまた、元に戻るのは大変じゃないですか。日本人は、お陰様で今こうやって、そんなにあの方たち程の苦勞をしなくても毎日を送っていけるわけですから。だから、せめて、本当にそういう、生きていけること、たまに美味しいものを食べたり、子どもたちと家族団圓でそれが一番幸せなんだという気持ちを持ちながら、自然に対する感謝を今までの何倍も、何倍も、何倍も持って生きていきたい。これが私の結論でございます。(盛大な拍手)

松島先生が案内する地形地質見学会

大地はダイナミックに動くものだ！！

3月10日(木)、18日(金)

足柄平野と足柄山地を探る



神縄・国府津-松田断層帯略図
(活断層研究会,1991をもとに作成し、日向断層を加筆)

例年のように同じ内容で2回開催された。

国府津-松田断層は県内でもっともと言って良い有名な活断層。4月に熊本地震があり活断層がまた注目されるようになったが、この時は活断層の動きについての現実感はあまりなかったかも知れない。

見学場所(本厚木駅出発・帰着 貸切バス利用)

松田山(チェックメイトゴルフ場脇): 足柄平野の地形と国府津松田断層

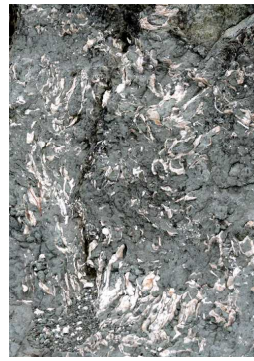
大野山頂上: 酒匂川の変遷、足柄層群が堆積した地形



松田山から国府津松田断層崖

河内川タダラド橋上流の河床：カキ礁（マガキ）化石、当時の堆積環境を示す漣痕化石、丹沢を作る岩石
塩沢層化石産地
谷ヶ駅付近：御殿場泥流堆積物

3月10日の会は、生憎の空模様で、大野山の山頂付近は全く展望がきかず残念だった。
両日とも、帰途、「はだの・じばさんず」に寄り地産地消の現状見学を行った（もちろん有志は買い物も）事も好評だった。



河床で見られるカキ礁化石



漣痕化石

神奈川県内自然保護ニュース

(このページに掲載する情報をお寄せください。)

渋沢丘陵八国見山霊園造成工事 周辺の自然をいかに守るか

残念ながら、工事が着々と進んでいます。
企業や行政への対応は別として、如何に周りの残された自然を保全していくか課題だと思えます。
それにしても、この種の報道するのはどうして毎日新聞だけなのか疑問に思うのですが、一説に寄れば、多くの新聞記者にとって自然環境は関心が無いとの事です。そうであれば、こちらの方が大きな問題ではないかと思えます。

秦野・八国見山霊園 計画地全域で樹木伐採 映像作家撮影、19.9ヘクタール山肌あらわ

毎日新聞 2016年3月25日 / 神奈川県版より要約

霊園開発が進められている八国見山南面区域の現状を、同市千村の映像作家で「ネイチャーシネプロ」代表の吉田嗣郎さんが撮影した。吉田さんは開発状況を追うため、定点観測としてドローンを使った開発区域の空撮を続けている。霊園計画区域約19.9ヘクタールのほぼ全域で樹木が伐採され、県内では抜群の自然環境を誇るとされてきた豊かな里山が、壊滅的な状況にあることが浮き彫りになった。【高橋和夫】

東と南に延びる尾根や、相模湾に注ぐ中村川源流域の切れ込んだ谷筋は、樹木の伐採により、取り返しのつかない姿をさらけ出している。開発区域一帯は国蝶（ちょう）オオムラサキの県内最大級の生息地。また、希少植物オトメアオイの生育地でもある。吉田さんは「県内でも特に優れた自然環境だった南面区域の無残な姿を見ると無力さを感じる」と話す。霊園開発の事業主体である「公益財団法人相模メモリアルパーク」（愛川町）の工程表では、今月も伐採木の搬出や進入路の掘削、墓苑の盛り土が計画されている。吉田さんは今後も定点観測を続けていく考えだ。

秦野の八国見山南面区域周辺 ノスリ営巣放棄は巣に異変 毎日新聞 2016年5月25日 / 神奈川県版

これは、昨年に続いて工事進入路近くでノスリが営巣行動を見せていたが、この春は巣を放棄しました。放棄した巣を調べたところ、何らかの手が加えられた可能性があることをにおわせる記事です。

穿った見方をすればノスリが営巣することによって、工事に支障が出ることを嫌った業者の存在が感じられます。

瀬上沢開発問題の今

1 東日本最大級の製鉄遺跡

都市計画道路施設にともない、この地区で埋蔵文化財予備調査を行いました。その結果東日本最大級の7世紀製鉄遺跡ことが昭和63年に報告されました。その充実した大規模な遺跡であり、(いずれ本格的な調査が出来るまで)一部を残して埋め戻し、今後この地区で地域開発がされるようなときは完全発掘を行う遺跡調査、一部保存・展示施設整備を実施することに決定して予備調査を終了したの事です。

このことをに配慮するよう、関係者であった元横浜市文化財保護条例制定委員の北條祐勝氏が昨年11月26日、市教育委員会に要請しました。

(これに対する横浜市教育委員会からの回答 要旨)

今回の事業計画地内には、上郷深田遺跡を含む栄区 M97 遺跡の全体が含まれており、今後、事業実施にあたっては、文化財保護法等に基づく、事前の埋蔵文化財発掘調査等の保護措置が必要となります。

事業者とは 当該埋蔵文化財の取り扱いについて、協議を進めており、事業計画に進捗にしたがって、工事施工前に発掘調査の実施等、保護措置を図ってまいります。

平成 27 年 12 月 28 日

横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課長

2 開発業者の横暴 3/23

(ホテルのふるさと瀬上沢基金角田理事長メールの要旨) 西側の看板

猿田谷戸の江戸道がある山側湿地に、「私有地につき立ち入り禁止」「キケン陥没地有危険」とい看板が、新しく建てていました。水たまりになっていた所も、埋められて踏みつけられていました。

猿田谷戸の周囲は、公道と公有地で囲まれています。東急は、堂々と公有地の占拠をしている事になります。陥没地などありません、これは虚偽です。

他にも、フェンスとトンネルの間や舞上線沿道に刈り取った竹を大量に置くなど、公有地占拠をしています。

今後の西側ツアーにも影響します。この際東急に、猿田谷戸内の看板撤去を強硬に求めようと思います。

◎ 続きです。 3/30

ホテルのふるさと瀬上基金から看板撤去の申し入れをしました。その結果です。

猿田谷戸看板撤去申し入れから 1 週間経ちましたので確認してきました。

看板は撤去され、フェンス下看板の後ろに 2 枚束ねて置いてありました。

連絡はまだありませんが、2枚の看板がきちんとテープで束ねられている事から、東急建設で撤去したものに違いなさそうです。

東急建設の今回の対応は、一応評価しましょう。

3 ホタルのふるさと瀬上沢 基金 パネル 展

瀬上沢の遺跡群、子供たちの絵などから、温暖化や自然の大切さを考えます。皆さま、ぜひお出かけください。
場所：港南台地域ケアプラザ（214ビル、マロニエ通り）

期間：4月1日から9月29日

特定外来生物 カナダガン根絶に成功

丹沢湖などにいた外来種カナダガンは個体群復活事業中の在来種シジュウカラガンとの交雑が心配されていました。

神奈川県自然保護協会は、日本雁を保護する会、日本野鳥の会神奈川支部、かながわ野生動物サポートネットワーク等のカナダガン対策に協力しました。

その結果特定外来生物では初めて、現在の所唯一の根絶成功例となりました。

これを日経新聞で取り上げてくれました。

特定外来生物根絶に初成功 カナダガン、飛べぬ時期に一網打尽

2016/2/22 日本経済新聞 電子版 要約

在来種との交雑が懸念されていた北米原産の鳥、カナダガンが国内から姿を消した。野生化した個体が山梨県や静岡県などの湖沼で繁殖。一時は100羽程度が生息していたが、民間グループがいち早く捕獲作戦を展開し、特定外来生物の根絶に成功した初のケースとなった。

昨年12月4日、茨城県龍ケ崎市の牛久沼に残っていたカナダガン1羽とガチョウとの交雑種1羽が捕獲され、環境省は同8日、国内の野生個体の根絶を宣言した。

カナダガンは北米に生息する渡り鳥。日本に飛来する在来種のシジュウカラガンと似ているが、体が一回り大きい。生態系への影響や農業被害の恐れを理由に、同省が2014年に特定外来生物に指定していた。

静岡県富士宮市で国内初の野生個体が確認されたのは1985年。10年には同県の田貫湖や山梨県の河口湖と山中湖、神奈川県の丹沢湖を中心に計約100羽が生息していた。

「少なく聞こえるが、ニュージーランドでは約100年前に狩猟用に持ち込まれた50羽が今では6万羽に増えて

< パネルの内容 >

- ①瀬上沢の自然を残したい
- ②7世代先まで考えて決める
- ③地球温暖化って何？
- ④瀬上沢の遺跡群 1
- ⑤瀬上沢の遺跡群 2
- ⑥この森を残して下さい
- ⑦みんなの生物図鑑 1
- ⑧みんなの生物図鑑 2
- ⑨危機 瀬上沢
- ⑩宇宙から見た神奈川

いる」。神奈川県立生命の星・地球博物館の学芸員、加藤ゆきさん（44）は話す。

当初は1羽ずつ捕まえていたので効率が悪かったが、観察の結果、6月に羽根が抜け落ちて飛べなくなる時期があると判明。そこを狙い、奥を行き止まりにした網のフェンス「袋網」を岸辺に仕掛け、水面の群れをカヌーなどで追い込んで一網打尽にしていた。

繁殖を防ぐため、巣の中の卵は石こうでできた偽の卵と取り換えた。

捕獲したカナダガンのうち、動物園などに引き取られたのは27羽で、残りは殺処分となった。調査グループの獣医、葉山久世さん（57）は「カナダガンに罪はないが、生態系を守るにはやむを得ない。人間による安易な持ち込みがこの事態を招いた」と強調する。

根絶宣言に至ったとはいえ、環境省は「隠れ個体がいる可能性はゼロではない」と説明。特定外来生物の指定を継続し、目撃情報を募っている。

なお、カナダガン調査グループの活動について、葉山久世さんが富士ゼロックスの広報誌「グラフィケーション」に献言し経緯を寄稿しています。以下から見ることができます。

タブレットをお持ちであれば下記からアプリをダウンロードください。

http://www.fujixerox.co.jp/company/public/graphication/current_number.html

パソコンの場合はこちらを。

<https://graphication2.s3.amazonaws.com/html/003/index.html#/spreads/1>

3月19日 記念してフォーラムを開催しました。また、3月22日から28日まで、活動を紹介する展示を鎌倉駅地下道ギャラリーで行いました。

茅ヶ崎野外自然史博物館

行谷（なめがや）保全活動地が2015年度の「関東水と緑のネットワーク拠点百選」に選定されました。この資金を得て、「行谷の湿地湿田を未来まで」という、この場所の自然環境や生きものを紹介するパンフレットを作りました。

県内団体活動情報 短信

川名自然フォーラム 10周年

川名自然フォーラムは藤沢市川名清水谷戸で活動する団体です。2月11日10周年記念フォーラムを開催しました。合わせて、10年の歩みや、清水谷戸の紹介、保全の課題などをまとめた記念誌を発行しました。

NPO 法人 山崎・谷戸の会 10周年

山崎・谷戸の会は、鎌倉中央公園が出来る前からここで活動する団体です。里山活動では県内でのモデル的活動として評価されています。

神奈川県自然保護協会からのお知らせ

会費納入時期です。振込用紙同封しました。総会時の確定会員数はその時点での会費納入者と総会参加出欠葉書（次号に同封）により会員継続意志がある会員です。郵便法により個別の通知はニュースレターに同封できません。ご協力ください。

会員の皆様向けにメールマガジンを送っています。

ニュースレターが、なかなか発行できないのに情報は色々あります。そこで昨年からアドレスの分かる会員向けに不定期ですが、メールマガジンを送らせていただいています。届いていない会員の方でご希望があれば事務局にメールアドレスをお教え下さい。

ちなみにニュースレター前号発行以降の内容を項目だけ書き出しておきます。

2016/1/7

- 1 さがみ自然フォーラム 展示団体等募集
- 2 日本の海岸の現状とこれから 九州大学清野聡子さんの話 ユーチューブで見られます。
- 3 行徳野鳥観察舎（千葉県）存続要望に協力を

2016/1/20

- 1 瀬上沢から 開発予定地は東日本最大級の製鉄遺跡
- 2 県パブコメ
「相模灘沿岸海岸保全基本計画変更（素案）」
「東京湾沿岸海岸保全基本計画[神奈川県区間]変更（素案）」

2016/2/10

- 1 さがみ自然フォーラム 明日からです。
- 2 今年の「大地はダイナミックに動くものだ」地質地質見学会実施日決定
- 3 県からの情報 ガンカモ類生息調査結果

2016/2/19

- 1 大地はダイナミックに動くものだ
松島先生が案内する地形と地質見学会 開催のお知らせ
- 2 他団体の行事
神奈川ウオーターネットワークから

2016/2/25

- 1 カナダガン根絶に成功
- 2 神奈川県からのお知らせ
「環境基本計画」骨子案に関する意見募集の結果
- 3 他団体の行事
(1) 神奈川ウオーターネットワーク
第2回市民フォーラムの内容
(2) 日本林学会 市民公開シンポジウム
「潤いのある都市を造る森林」

2016/3/6

- 1 大地はダイナミックに動くものだ!!
まだ余裕があります。
- 2 神奈川県からのお知らせ
環境アセスメント条例施行規則の一部改正

2016/3/23

- 1 開発の動き ホタルのふるさと瀬上基金からの情報
- 2 水田の農薬、トンボに悪影響 国立環境研実験 (3/16 朝日新聞電子版)
- 3 神奈川県アライグマ防除実施計画、効果に疑問
- 4 神奈川県記者発表から 2016年03月18日
■「東京湾沿岸海岸保全基本計画[神奈川県区間]変更（素案）」に関する意見募集の結果
■「相模灘沿岸海岸保全基本計画変更（素案）」に関する意見募集の結果

2016/3/30

- 1 水源環境保全再生 平成26年度事業点検結果
- 2 あつぎこどもの森公園での自然観察リーダー養成講座
- 3 瀬上沢開発 ホタルのふるさと瀬上沢基金 角田さんより
- 4 渋沢丘陵霊園建設 毎日新聞記事

2016/4/8 No. 19 (この号から遡ってNo.記載)

- 1 ホタルのふるさと瀬上沢 基金 パネル 展のお知らせ
- 2 神奈川県から
2-1 かながわ生物多様性計画策定
2-2 第3次神奈川県アライグマ防除実施計画
2-3 香ノ田採石場増設事業環境影響予測評価書の提出及び縦覧

2016/4/24 No. 20

- 1 神奈川県 農林水産関係試験研究課題
- 2 茅ヶ崎野外自然史博物館 行谷（なめがや）保全活動地
2015年度「関東水と緑のネットワーク拠点百選」に選定
- 3 神奈川県環境アセスメント情報
■JFE扇島火力発電所更新計画に係る準備書意見
・見解書の送付及び縦覧並びに同事業に係る準備書公聴会の開催
■（仮称）横須賀火力発電所新1・2号機建設計画に係る計画段階環境配慮書等の送付及び縦覧

2016/5/14 No. 21

- 1 総会のお知らせ
- 2 かながわエコ10フェスタ2016 ブース出展
- 3 川名自然フォーラム 第68回公開例会
- 4 あつぎこどもの森 自然塾他

ニュースレター 84号

特定非営利活動法人

神奈川県自然保護協会

<http://www.eco-kana.org>

郵便振替口座 00230-0-112653 銀行からの振り込みは ゆうちょ銀行(9900) 029 (七 〇 七 九)店 当座 0112653

2016年 5月26日発行

〒243-0816 厚木市 林 5-15-10 青砥方

TEL&FAX 046-222-2356

Eメール:nacs-kana-office01@eco-kana.org